

【新聞記事】

◆作業事故で男性死亡

コンクリートを破砕する機械に胸を挟まれたと、同社関係者から119番があった。病院に搬送されたが、約1時間後に死亡した。

他の作業員1人とコンクリートを破砕中、はさみ部分に鉄骨のような物が挟まり、機械が動かなくなっただため、外そうとして体を挟まれたらしい。

※事故発生場所や時期等を特定されないことがないように黒塗りを施しています。

機械設備・有害物質の種類（起因物）	重機（小割圧砕機）
災害の種類（事故の型）	はさまれ、巻き込まれ
被害者数	死亡者数：1人

【同類事故防止対策】

厚生労働省「職場のあんぜんサイト」より

- ・作業者が重機の可動個所に立ち入る際は、エンジンキーを抜き取る等、可動する装置を停止するよう徹底すること。
- ・重機と作業者が接触するおそれのある箇所には、立入禁止区域を設ける。
- ・立入禁止措置、誘導者の配置、合図等の作業方法に関する作業計画を策定し、関係者に周知徹底する。
- ・非定常作業についても作業マニュアルを定めて、関係作業者の教育を行うこと
- ・労働災害の危険が多い場所は、作業責任者の配置などの安全管理体制を整備するとともに、作業開始前の綿密な打ち合わせを実施する。重機の運転者に対し、運転開始前に周囲の安全を確認するように教育する。
- ・重機の運転者については、一定の周期で能力向上教育を実施し、過信などによる運転操作を行わないよう教育訓練する。

【類似事故】

はさまった木切れを取り除き作業中にフォークリフトのバケットが降下してはさまれる



↑ イラストをクリックすると拡大表示されます。

発生状況

この災害は、廃棄物の処理を行っている会社内において、廃棄物をフォークリフトでトラックに積み込む作業中に発生したものである。

この会社では、一般ごみ及び産業廃棄物を会社内の広場で解体用機械で解体・分解したのち、廃棄物の種別ごとに区分し、トラックでごみの処分地に運搬する業務を行っている。

この日は、日曜日であったが、被災者は、午前9.00に出勤し、前日に処理し切れなかった廃材を、フォークリフトを使ってトラックに積み込む作業を開始した。

この作業を開始してまもなく、バケットからこぼれ落ちた木切れがフォークリフトのリフトシリンダーにはさまり、バケットが下降しなくなった。

そこで、被災者は、運転席から降りてフォークリフトの正面に回ってバケットの下に入り込み、バールを使ってはさまっていた木切れを取り除こうとしていたところ、バケットが急に降下してきて胸部及び腹部を打撲した。

原因

この災害は、廃棄物の処理を行っている会社において、廃棄物をフォークリフトでトラックに積み込む作業中に発生したものであるが、その原因としては次のことが考えられる。

1 直接的な原因

この災害の直接の原因は、安全な措置をとらないまま、はさまっていた木切れを取り除くため、被災者がフォークリフトのバケットの下に入ったことであり、このような作業を行う場合には、万一バケットが降下しても安全なように安全ブロック等を使用することが必要である。

2 間接的な原因

経営者の安全管理についての認識が希薄であったこと、フォークリフトの運転技能講習を修了した者がいなかったこと、フォークリフトの特定自主検査が一度も実施されていなかったこと等があげられる。

資料出所：職場のあんぜんサイト（厚生労働省）